

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795200126		
法人名	(株)ケア21		
事業所名	たのしい家都島(1)		
所在地	大阪市都島区御幸町1-6-5		
自己評価作成日	令和3年3月17日	評価結果市町村受理日	令和3年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JkyosyoCd=2795200126-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年4月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設開設から4年になり、入居者様、職員も入れ替わりがあり管理者も新しくなりました。前任者から受け継いでいる「認知症になってもその人らしい生活ができる」を第一に、その人の状態を把握することや自己決定を優先する、又、自尊心を傷つけないような接し方や話し方を研修で学び、より良い介護ができるように実践しています。
 コロナウイルスの感染症対策の為、外出や家族様、ご友人の方々と直接お会いできず我慢して頂くなくてはならない日々が続いていますが、室内でできるイベントやレクリエーション等に参加して頂き気分転換や日頃のストレスの発散に努めています。限られた中でもその人らしく生き生きとした生活が送れるように支援していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは「認知症になってもその人らしく生きる」とホーム独自の理念を掲げ、できる限り在宅時と同じような暮らしができるよう支援をしています。一人ひとりの力を引き出しながら食事の後片付けやモップかけ、洗濯物干しや畳みなど、利用者にはできる事に携わり力を発揮しています。コロナ禍で外出を自粛中ですが職員は楽しめるレクリエーションを工夫し、利用者がその人らしく笑顔で暮らせるよう話し合い支援をしています。また家族には何かある毎に電話で連絡を取り様子を伝えたり、運動不足を心配する家族の声を全て受け取り取り組む体操の機会を増やしたり、新たにビデオ電話を取り入れ利用者の顔を見てもらう事で家族の安心に繋がっています。また看取り支援にも取り組んでおり、本人や家族の意向を大切に医師や看護師と連携を図りホームで行える支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	都島の理念は各フロアと玄関に掲示している。『認知症になってもその人らしく生きる』ということで自己決定を優先するように職員は共有している。	法人理念を踏まえ作成されたホーム独自の理念をホーム内に掲示し、職員の入職時には理念に込められた思いの共有に向け、その人らしさの大切さ等を伝えています。会議やカンファレンス、申し送り時など、ケアを考える際に理念に触れる機会が多くあり、その人らしく暮らしているかなどを確認しながら理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は近所の幼稚園との交流があり、運動会に行ったり、施設でのイベントがあれば参加していた。 現在は発表会をリモートにて観賞して頂く事をしている。	自治会の回覧板が届き、地域情報を得ていますがコロナ禍では交流は難しく地域の店舗から米の購入を継続しています。例年は自治会長から直接地域行事の案内があり、ホーム前の公園で行われる花見や夏祭りに合わせてホームの夏祭りを行ったり、地域の防災訓練には職員が参加していました。腹話術やフラダンス等のボランティアや近隣保育園児と交流していましたが全ての行事が中止となり、コロナ収束後には再開を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は介護フェスティバルに参加していたがフェスティバル自体が開催していない。 今は相談があれば話をしている状況。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回職員のみで開催し、議事録で事故報告、改善策を説明している。 また、家族様には月一回のお手紙の時に書面で報告し電話をする要件があればその時に質問等を聞き都度説明している。	コロナ禍での会議開催は参加者から事前に意見をもらい職員のみで行い、利用者の状況や研修、事故、コロナ禍での外出の中止や面会の制限等の報告の他、感染対策を行った行事の様子等を報告書にまとめ報告しています。通常の会議では家族や地域包括支援センター職員が参加していますが自治会長にも会議の案内をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	FAX等で感染症の注意喚起があり職員に周知したり、アンケート調査への回答、研修案内があった時には参加する等、協力関係を気づくよう努めている。	事故報告の提出の際に窓口へ出向いたり、アンケートへの協力や法改正やコロナ感染症に関する情報が届き職員に周知しています。管理者就任から2ヶ月程しか経っておらず今後は分からない事があれば積極的に出向いたり電話で問い合わせ関わりを持てるよう取り組む予定とします。またコロナ収束後は研修への参加を予定しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回、身体拘束についての研修を行っている。2か月に1回身体拘束委員会を開催している。申し送り時などに職員からの質問(スピーチロック・4点柵その他)などに答え身体拘束のない施設になるように努めている。	年に2回オンラインによる研修の実施や隔月に身体拘束適正化委員会を行い内容を職員に周知しています。また毎月の会議時に身体拘束について取り上げたり、職員の質問に答えながら学ぶ機会を持ち、制止に繋がらな声のかけ方等を具体的に説明しています。出入口はテンキー対応となっており、現在は外出は自粛中ですがコロナ禍以前は思いに沿って出かけていました。	

たのしい家都島(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待防止についての研修を行っている。身体に痣や傷を発見したときは職員同士で確認し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社などで成年後見人の研修を受けている。また、施設の入居者様で成年後見人をつけている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と契約解除時は家族様の疑問点に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族様に電話をする時に意見や要望を聞き、反映できることはしている。	利用者の希望は日々の中で聞いたり、定期的に食事に関するアンケートを取り、希望をイベント食に取り入れています。家族へは月に1度様子を知らせる手紙の送付や事ある毎に電話連絡を心掛け意見が無いかを聞いたり、年に1度法人による満足度調査も行われています。運動不足を心配する声があり、職員間で話し合い全員で行う体操の機会を増やす等の取り組みに繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロア会議、全体会議で職員から意見や提案を発表してもらうようになっている。	職員の意見や提案は月に一度の全体会議やフロア会議、日々の業務の中でも多くの意見を聞いており相談しやすい環境づくりをしています。また月の行事や装飾などの担当者を決め、会議で決まった行事などは担当者を中心に実施に繋がっています。定期的な面談や職員向けのアンケートも行われており意見を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業績一時金や誰伸び制度などがあり、毎年給料が上がっている。段位制度で能力により給料が変わる事や処遇改善等また有給も取れている。 サービス残業は行っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・コーチング研修等内外の研修を積極的に受ける機会を確保している。		

たのしい家都島(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症の為現在は行っていない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス前に生活歴、生活、嗜好等を把握し本人が安心して暮らせる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の不安、疑問、要望等に応え、関係づくりを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、何ができるのかを把握し、できる事の継続または支援すればできる事を入居者様と共に行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事の維持、継続をするために職員が寄り添うように見守りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、お便りで状況報告やライン面会時での本人の様子などを家族様が安心出来る様にな状況報告をするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は行っていない。	コロナ禍では家族や友人などの面会を中止していますが毎年桜の木を届けてくれる友人からは今年も桜が届き居室に飾ったり、親戚などからの電話の取次ぎや年賀状を書く方がおり、家族や職員が葉書の準備や投函などを支援しています。以前は友人の面会や散歩時に自宅を見に行ったり、家族と自宅や買い物に行く方もおり、出かけるまでの準備を支援していました。コロナ収束後は馴染みの支援を再開する予定としています。	

たのしい家都島(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	意思疎通が困難な入居者様には職員が間に入り、関係を良好に保つようしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様によっては退去後も訪問に来てくださっていましたが、現在は訪問されない。先方より連絡がない限りは援助等は行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己決定を優先にし、その人らしさを大切にしている。	入居時は利用者や家族の元へ出向き、生活歴や入居の理由、趣味嗜好、希望などを聞き、以前の事業所等からも情報をもらい意向の把握に繋がっています。入居後は本人の言葉や職員が気付いた事柄を記録に残し、連絡帳で共有しています。把握が困難な場合は表情や行動等から汲み取ったり、ひもときシート等も活用し、職員が気付いた事を出し合い意向が把握できるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室担当者がセンター方式・ひもときシートを用い、これまでの暮らしを把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタル測定や様子観察を行い、できる事や支援をすればできる事を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様や本人の意向や要望、課題等、カンファレンスや朝、夕の申し送り時に気付きを話し合い、介護計画に繋げている。	本人や家族の意向やを基に介護計画を作成しています。2ヶ月毎に職員の意見や日々の記録等を参考にモニタリングと評価を行い、変化の無い場合は6ヶ月毎に見直し、状態に変化があった場合は随時見直しています。見直しに向けては本人の状態を把握する為に再アセスメントを行い、事前に確認した家族の意向や必要に応じて往診時の医師や訪問看護師の意見を反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや機嫌、様子、工夫、バイタル、排泄、水分量、排泄量、服薬を記録し、情報を共有している。		

たのしい家都島(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズは柔軟に対応することができる事とできない事があり、毎月の会議等で共有しています。また、訪問リハビリやマッサージを取り入れています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着とはいえず個人の地域に即した地域資源を利用するまでには至っていませんが、また、お米の発注は地域の商店にお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医は月2回の往診を実施。提携医とは個別に契約を結んで頂き、納得を得られています。個別によってはかかりつけ医を継続していたこともありました。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を伝えていますが現在は全員が24時間対応可能な提携医の往診を月2回を受けています。専門医を受診の際は提携意に紹介状を書いてもらい基本的には家族が対応し、状況により職員が付き添う事もあります。体調変化時は提携医に連絡を取り対応したり、往診を受ける事もあります。また必要や希望に応じて訪問歯科や訪問マッサージを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康面等日頃の気付きを訪問看護師に伝え、往診医との連携を取りながら適切な処置を看護師の指導のもと行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会時に情報収集を行い、家族様・往診医とも連携しながら早期退院ができる様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医・家族様・施設で看取りの方針を話し合い、入居者様・家族様の意見を取り入れている。又、家族様から看取りについての同意書を貰っている。	入居時に重度化等に関する指針を基にホームの対応について医療が関わると難しい事等を説明しています。重度化した場合は往診医から家族へ説明が行われ意向を再確認しています。支援を行う場合は付き添い等できる範囲で家族の協力を得ながら医師や看護師にアドバイスをもらい取り組んでいます。支援後は振り返りの機会を持ち、看取りに関する研修も行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習や緊急対応の研修を行っている又、緊急フローチャートを掲示している。		

たのしい家都島(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。全職員が災害時に対応できるように努めている。	例年の訓練では年に1度は消防の立ち合いを得ていましたがコロナ禍の今年度はホーム独自で年に2回、昼夜を想定し、消防署立ち合い時に行った訓練の内容に沿って通報や利用者の避難誘導などを実施しています。地域の訓練が行われる際は職員が参加し、3日分程度の水や食料の備蓄の他、排泄用品やランタンなどを準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や生活を把握し、その人に合った人格を尊重する声掛けを行っている。	接遇などに関する定期的な研修を実施し、チェックシートを用いて個々に振り返ったり、会議時にも話し合う機会を持っています。苗字での声をかけを基本に丁寧すぎず、穏やかな言葉遣いに努め、利用者はもとより職員の笑顔にも繋がるよう表情等にも注意を払うよう伝えています。希望がある場合はできる限り同性介助に努め、不適切な対応が見られた場合はその都度指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望・希望・意向を把握し、自己決定ができる支援を行っている。自己決定が困難な入居者様は選択ができる様に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体を第一に考え、入居者様が望む生活ができる様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回の訪問理容を利用している。服装は本人の好みを尊重しているが、季節に合わない時は自尊心を傷つけないような声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染症予防の為現在は片付けのみ行っている。	年間行事に配慮した業者の献立に沿って食材が届き、以前は米とぎや野菜の下処理等を利用者に携わってもらい調理していましたが現在は感染防止の為利用者は片付け等に携わっています。リクエスト食の日を設け鍋料理や花見弁当を選んでもらい注文したり、誕生日の手作りケーキ等の他、善哉やどら焼き、ホットケーキ等のおやつ作りを楽しんでいます。職員も共に食事を摂っていましたがコロナ禍で中止しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記入して職員が把握し、摂取困難時は摂取できるような工夫をしている。		

たのしい家都島(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週、歯科医の往診があり、口腔ケアの指導を受けている。往診がない入居者様は、本人に応じた支援をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記載し、排泄の自立を維持できるように、又、家族様の金銭の負担が減少できるように支援を行っている。	記録から個々の排泄リズムを把握したり、排泄のサインを見ながらトイレに案内しています。日々の中で職員が気付いた事や変化があった場合はその都度申し送り時に職員間で共有し、個々に合った排泄用品の選択やポータブルトイレの使用等、カンファレンスで話し合っています。タイミングの合った支援の継続で紙パンツから布の下着に改善した方もおり、個々に合わせて現状維持や自立に向かうよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分量や排便の回数を記載し、便秘時は往診医の指示で対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日設定をしているが、本人の要望・意向に沿う様に対応している。	入浴は週に2回は入れるよう午後から支援していますが希望に沿って午前中に入る方もおり、できる限り希望の時間に入れるよう対応しています。一人ずつ湯を入れ替え個々のペースで入れるよう支援し、好む方には入浴剤を用いて季節湯を楽しんでもらっています。入浴を断る方には声掛けの工夫や職員の交代、時間の変更等の対応を行い無理の無い入浴支援に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じ、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援や症状の変化の確認を行っている。又、看護師が薬の副作用など確認して職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯関係や室内で季節の行事やイベント等楽しんでもらえるように支援している。		

たのしい家都島(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	現在は行っていない。	コロナ感染が落ち着いていた一時期には近隣の散歩や公園などに出かけていましたが現状では全ての外出行事を自粛しており、天気の良い日はベランダに出て外気浴をしています。コロナ禍以前は買い物や散歩の他、初詣や桜の花見、菖蒲園、地域行事などに出かけていました。コロナ収束後には外出行事を再開する予定としています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はおられず、家族様より施設に預けたお金を必要時に使用しています。		
51 0		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと訴えがある場合は家族様に了解をもらい電話をしている。又、家族様、友達からのハガキや手紙は本人に渡しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらうように季節の装飾作りを共に制作している。	毎月季節に合わせて利用者と作品を作り飾ったり、日時が分かるよう見やすい場所に時計を掛けています。ホーム向かいの公園は桜などの木々が植えられ季節の移ろいを眺めることができます。フロアには長いソファを置き、仲の良い人同士が寛いだり、テーブル席は利用者同士の相性に配慮し決めています。また定期的に窓を開けて換気したり、空気清浄機の台数を増やし、安全に利用者が過ごしやすいよう環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、自由の気の合った入居者様同士や職員で会話をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族の好みで、使い慣れた家具や布団を設置しており、個々の個性が出ている。	入居時には使い練れた物や必要な物を持って来てもらうよう伝えていきます。自宅から筆筒や座り慣れた椅子、テレビ、使用していた寝具類などの他、大きな仏壇などを持参している方もおり家族が過ごしやすいよう配置しています。また趣味の電子ピアノを持参し居室で弾く方もおり、一人ひとりが安心して過ごせるよう支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる事や支援をしたらできる事を把握し、自立できる生活を送れるよう支援をしている。		